

B年顕現後第1主日・主イエス洗礼の日 マルコ1章7―11節

〔直訳〕

- 7 そして 彼は宣べ伝えた 言いながら、
「来る 私より強い者が 私の後に、
その人の 私はふさわしくない
かがんで 解くために 彼のサンダルのひもを。
8 私は 洗礼を施した あなたがたに 水で、
だが彼は 洗礼を施すだろう あなたがたに 聖なる霊で。」

- 9 そして 起こった それらの日々に
来た イエスが ガリラヤのナザレから、
そして 彼は洗礼を施された ヨルダンで ヨハネによつて。

- 10 そして すぐに 上がりながら 水から
彼は見た 引き裂かれるのを 天が
そして 霊が 鳩のように 下るのを 彼に。

- 11 そして 声が 起こった 天から、
「あなたは ある 私の愛する子で、
あなたに 私は好意を持った。」

〔新共同訳〕

- 7 彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。 8 わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」
9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。
10 水の中から上がるとすぐ、天が裂けて、霊が鳩のように御自分に降って来るのを、御覧になった。 11 すると、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が、天から聞こえた。

①文脈

③マルコ福音書1章1―15節はマルコ福音書全体の序と見ることが出来る。マルコはマタイやルカとは違って、イエスの系図や誕生物語を書くことなく、洗礼者ヨハネの証言から始める。

④マルコはマラキ3章1節「見よ、わたしは使者を遣わす」に「あなたの前に」を加えることによつて、この句を、神がイエスに洗礼者ヨハネを示しながら語った言葉にしている。いわば、天上で神がイエスに語りかけ、「あなたの道を準備する」者が現れたことを告げて、救いのために決定的な時が到来したことを明らかにする。そのとき、地上では、洗礼者ヨハネが罪の赦しを得

させるための悔い改めの洗礼を宣べ伝え、人々はそれに応じて、彼から洗礼を受ける。洗礼者ヨハネは彼よりも後に、彼よりも優れた者が来ることを宣言し、「わたしは水で洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる」と告げる（一11-8）。この後に、主イエスの洗礼が続く。◎イエスが洗礼を受けると、「**霊**」はイエスを荒れ野に送り出す。イエスはそこに四十日間とどまり、サタンからの誘惑を受けるが、その間、野獣が一緒にいて、天使がイエスに仕える（一12-13）。洗礼者ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝え、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と宣言する（一14-15）。

②構成

㉓ 7-8節

ここは、イエスの先駆けとして登場した洗礼者ヨハネの活動を描く1-8節に属しており、彼自身が「聖霊で洗礼を施す方」の先駆けであると表明していたと述べている。9節以下とは「洗礼を施す」という言葉によってつながっている。

㉔ 9-11節

㉗ 洗礼者ヨハネは「洗礼を施した」が、そのヨハネからイエスは「洗礼を施された」（9節）。この洗礼によって、イエスは民の一人に加わり、その民を新たな時代に導き入れる。10節には「彼（イエス）が見た」ことが描かれる。

㉘ 「上がりながら」、「引き裂かれる」、「下る」は、動作の継続進行を表す現在分詞形である。イエスは、水から上がるにつれて、天がしだいに引き裂かれ、霊が彼に下りつつあるのを見る。イエスの「上がる」動作と対照的に、霊が天から「下る」。このような一連の動きの描写の中で、中心的な役割を演じているのは「彼は見た」である。

㉙ この「彼」はもちろんイエスである。人々ではなく、イエスが見たとあるから、10節の霊も、また11節の声も、それを受ける直接の対象はイエスである。10節の「見た」ことに続いて、11節では天からの「声」について語られる。視覚と聴覚の両方から出来事が描写される。イエスは「霊」と共にその使命を受け、「声」によってその身分が確認されると同時に、神からの支援が約束される。

㉚ イエスの洗礼は、時代の主人公が洗礼者ヨハネからイエスへと交代したことを表している。神からの霊と約束とを受けたイエスは、民の先頭に立って新しい時代へと歩き始める。

③洗礼者ヨハネの言葉（7-8節）

㉓ 7-8節は、神の言葉を述べる2-3節と対応して、洗礼者ヨハネの言葉を伝えている。洗礼者ヨハネは自ら先駆者にすぎないことを認め、彼の後に彼よりも優れた方が来ると表明する。洗礼者ヨハネは「悔い改めの洗礼」を宣べ伝えることによって、再来のエリヤとしての役割を果たし、神の決定的な介入を告げ知らせた人であるが、その彼も「後から来る方」と比べれば、「その方の履物のひもを解く値打ちもない」。当時の社会では、履物のひもを解くのは奴隷の仕事とされていたから、洗礼者ヨハネと「後から来る方」との相違が非常に強調されていることになる。

㉔ その方が「優れた方」であり、洗礼者ヨハネを凌駕する理由は、「聖霊で洗礼をお授けになる」ということにある。洗礼者ヨハネは水で洗礼を施すが、来たるべきメシアは聖霊によって施す。当時、イスラエルには霊が下らず、神はイスラエルから遠ざかったと考えられていた。しかし、神は霊を再びイスラエルに降し、決定的な救いをもたらそうとしている。ここでの聖霊は個人と

いうよりは、時代全体を新たにする力である。時代が変わり、新しい救いの時代が聖霊と共に到来しようとしている。

③ 8節の聖霊による洗礼は、イエスによって始められる新しい時代が霊に満ちた、救いの時代であることを表している。この転換は、「水」と「聖霊」の対比によって示されるだけでなく、動詞の時制の違いによっても示されている。洗礼者ヨハネは「洗礼を施した」（過去形Ⅱアオリスト形）が、イエスは「洗礼を施すだろう」（未来形）。ヨハネの洗礼はイエスの前ぶれにすぎない。洗礼者ヨハネは、すぐ後に続くイエスを指し示す「矢印」なのである。洗礼者ヨハネの洗礼については現在形ではなく、過去形が使われているが、過去形にすることによって、時代の転換を強調しているのかもしれない。

④ イエスの受けた洗礼（9―11節）

① イエスはヨハネから洗礼を受けるが、メシアとしての力は天から受ける。「引き裂かれる」は行為が神によって起こされたことを婉曲的に示す神的受動態である。マタイやルカの並行記事では「開く（アノイゴ）」が使われており、マルコだけが「引き裂く（スキゾ）」を使う。イエスの受洗のときに、天は「引き裂かれ」（マコ10）、イエスの死のときには、神殿の幕が「引き裂かれる」（マコ1538）。いずれの場合もイエスが誰であるかを示す言葉や告白が続く。最初に天が「引き裂かれて」、神がイエスは「神の子」だと述べ、最後では神殿の幕が「引き裂かれて」、異邦人の百人隊長がイエスは「神の子」だと告白している。イエスの受洗では、神の子イエスを通して働く神の救いの業がいよいよ始められたことが宣言されている。

② 10節では霊の降下がまず視覚的に表現され、11節では天からの声によって、その意味が聴覚的に明かされる。イエスは終末の日の油注がれた方（メシア）である。「鳩のように」は二様に解釈できる。

① 霊を形容しているなら、「鳩のような霊」。

② 霊の動き方を示しているなら、「鳩のように下る」。

鳩は、ユダヤ教やユダヤ・キリスト教では、霊のシンボルであったと言われることがあるが、霊を鳩にたとえる文書は存在していない。創世記1章2節に神の霊が「水の上を動いていた」とあるが、ユダヤ教ラビ伝承では、鳥のように神の霊が舞っている様子を表現しているとされている（ここに使われた「動いている」はヘブライ語では大空を舞う鳥の動きと関係があるといわれる）。だが、この鳥が鳩に限定されているわけではない。

③ 「天からの声」は「あなたは私の愛する子である」と告げる。マタイとは違い、マルコではこの天からの声はイエスに直接呼びかけるが、この呼びかけは「お前はわたしの子」（詩27）を思い起させる。詩編2は王の即位を歌った詩編であるので、この詩編を手掛かりにして、天からの声はイエスを「王的なメシア」と宣言したと解釈する人もいる。

⑤ 新しいいのちへの道

① イエスはヨハネから「洗礼を施される」ためにガリラヤから彼のもとに来る。ヨハネの洗礼は「罪の赦しを得させるための」洗礼であったが、そうであれば、罪のないイエスがなぜ、ヨハネから洗礼を受けたのか。マルコは5節で「ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた」と述べ、ヨハネの洗礼が民全体に広がっ

ていたことを強調していた。それを思い起こすなら、イエスの洗礼は、それによってこの民の間となり、彼らを新たな時代へと招き込むためだと言えるだろう。イエスが受けた洗礼は水による洗礼であるが、この洗礼と共に、洗礼者ヨハネによる準備の時代は幕を閉じ、成就の時代が始まったのである。

⑥ イエスが語る「洗礼」は、10章38節で、「このわたしが受ける洗礼を受けることができるか」と弟子たちに尋ねたときのように、十字架の死を表すことがある。洗礼者ヨハネからイエスが受けた洗礼は、この十字架の死をも予示しているかもしれない。イエスはヨハネからの洗礼によって、民の一員となり、彼らを新しいのちへと導くが、それは十字架を通る道である。

⑦ 10―11節では、十字架への道を歩み始めるイエスに向けて、神が与える支援が述べられる。10節では、水からイエスが「上がりながら」姿を表したとき、彼が「見た」ものが描かれる。彼が目にしたのは、天が「引き裂かれ」、霊が「下る」ことであつた。「天が引き裂かれる」は、神の介入を表すときに使われる表現である。イザヤ63章19節に「あなたの御名で呼ばれない者となつてから、わたしたちは久しい時を過ごしています。どうか、天を裂いて降ってください」とあるが、イエスの受洗と共に、神の介入が開始されたのである。天が裂かれ、霊が下ってくる。この霊と共に、神からの使命がイエスに与えられ、それを果たす力も付与される。これはイエスに自らの使命を自覚させる内的な出来事である。

⑧ 11節では、久しく沈黙していた神がついに「声」を出す。その声はイエスに「あなたは私の愛する子、あなたに私は好意を持った」と語りかけて、神からの使命を担うイエスを励ます。この神の言葉はまずはイエスに向けられている。イエスが誰であるかを人々に示すよりも前に、イエス自身に向けられた言葉である。2節に旧約からの引用として、「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させる」とあつた。この「あなた」もイエスである。2節の言葉は、天上で、神がイエスに時が到来したと告げる言葉であつた。11節では、神に従つて地上に降り、洗礼によって民の罪を背負う歩みへと踏み出したイエスに、神は限りない愛と支持を語りかけて、彼の自覚を強め、勇気づけている。

⑨ 霊がイエスの上に降つたという記述は、イザヤ42章1節を踏まえている。そこには次のようである。

見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。

わたしが選び、喜び迎える者を。

彼の上にわたしの霊は置かれ：

彼は神から霊を受け、神の救いを待ち望む人々に派遣される人物であるが、やがては民の罪のために「刺し貫かれる」ことによって、民に「平和」と「いやし」を与える「主の僕」である（イザ53:4―5）。イエスは「洗礼」によって、主の僕の任務を自ら引き受ける。イエスは聖霊に支えられ、限りない神の愛に包まれて、私たちの罪の赦しとなる十字架への道を歩き始める。

⑩ イエスの生涯は、第二イザヤが述べた「主の僕」の生涯であつた。イエスが洗礼を受けたときに、「わたしの心に適う者（あなたに私は好意を持った）」と呼ばれるのは、救いを地にもたらすために、十字架へと上って行くからである。神の思いに従い、自分が果たすべき最期へと向かって生きる時、神からの祝福と力に満たされることをイエスはその生涯によって示した。人が思い至ることのない救いへの道がイエスによって開かれたことを知り、新しいのちへと歩むようにとの励ましをイエスの洗礼の出来事は語っている。